Vol. 17

東京学芸大学附属世田谷中学校　2年生　社会科地理的分野（日本地理）・英語科　　2016年12月7日（水）

にほん探究 ～日本各地を学んで、つながりを発見しよう！～

発行：津山直樹

1、本日のテーマとKey Question

「ピクトグラムで多文化共生を考えよう―マジョリティの立場とマイノリティの立場の往還―」（社会科・英語科による教科横断型カリキュラム）

★「あなたにとって多文化共生とは何か」

2、パフォーマンス課題「ピクトグラムで多文化共生を考えよう―マジョリティの立場とマイノリティの立場の往還―」ルーブリック（再掲）

☆「ピクトグラムで多文化共生を考えよう」のルーブリック（評価基準表）　社会科ver

スタンダード	記　述　語
12点	・さまざまな事情で日本に来ている外国人児童・生徒を理解し、自分にできることを考えながら支援するためにピクトグラムを作成している。それが、普段の生活に密着しており、外国人児童・生徒が抱える困難の助けになるものとなっている。ピクトグラムは、誰にでもわかるものとなっており、日本にいるマイノリティに対してユニバーサルデザインの役割を果たしている。日本におけるマジョリティとしての自覚を持ち、マイノリティを配慮できている（主に「関心・意欲・態度」）。 ・マジョリティとマイノリティの両方の立場を経験したことを踏まえて、「多文化共生」について深く考え、自分ごととして自らの意見を表明することができている（主に「思考・判断・表現」）。
9-11点	・さまざまな事情で日本に来ている外国人児童・生徒を理解し、自分にできることを考えながら支援するためにピクトグラムを作成している。それが、外国人児童・生徒が抱える困難の助けになるものとなっている。ピクトグラムは、日本にいるマイノリティに対してユニバーサルデザインの役割を果たしている。日本におけるマジョリティとしての自覚を持ち、マイノリティを配慮できている（主に「関心・意欲・態度」）。 ・マジョリティとマイノリティの両方の立場を経験したことを踏まえて、「多文化共生」について考え、自らの意見を表明することができている（主に「思考・判断・表現」）。
5-8点	・日本に来ている外国人児童・生徒を理解し、自分にできることを考えながら支援するためにピクトグラムを作成している。それが、外国人児童・生徒が抱える困難の助けになるものとなっている。ピクトグラムは、やや不十分な点はあるが、日本にいるマイノリティに対してユニバーサルデザインの役割を果たしている。日本におけるマジョリティとしての自覚を持ち、マイノリティを配慮できている（主に「関心・意欲・態度」）。 ・マジョリティとマイノリティの両方の立場を経験したことを踏まえて、「多文化共生」について考え、自らの意見を表明することができている（主に「思考・判断・表現」）。
1-4点	・日本に来ている外国人児童・生徒を理解し、自分にできることを考えながら支援するためにピクトグラムを作成している。それが、外国人児童・生徒が抱える困難の助けになるものとなっていない。ピクトグラムは、日本にいるマイノリティに対してユニバーサルデザインの役割を果たしていない。日本におけるマイノリティを配慮しようとしている（主に「関心・意欲・態度」）。 ・マジョリティとマイノリティの両方の立場を経験したことを踏まえて、「多文化共生」について考え、自らの意見を表明することが部分的にしかできていない（主に「思考・判断・表現」）。
0点	評価基準の説明にある水準をいずれも達成できていない。

3、ユニバーサルデザイン（再掲）としての「ピクトグラム」（再掲）

＜ユニバーサルデザインの原則＞

○だれでも使いこなせる。○思った通りに自由に使える。○使い方が簡単。○使う人にとってわかりやすい。○使い方をまちがえても安全。○少ない力でも楽に長く使える。○ほどよいスペースがある。

＜ピクトグラムへのアプローチ＞

●次の三つの視点から外国人児童・生徒が困っている課題にアプローチしてみよう！

◇「モノ」など：普段の生活で必要なモノや場所（駅・病院・飲食店など衣食住に関係するモノや場所など）

◇「感情表現・気持ちの表明」など：自分の感情や気持ちを表明できる選択肢（病気の際に症状を伝える、自分がやりたいことや嫌なことなどを伝える、わからないことを聞くなど）

◇「日本の文化・習慣・マナー」など：マジョリティである日本人が当たり前だと思っている文化・習慣・マナー、日本人が無意識に行っている言動（駅やバス停での整列、食べ物のための行列、交通ルール、室内に入る際に靴を脱いだり、室内履きに履き替える、日本の学校にだけある教室や習慣、あいさつ、ごみの分別、遊びのルール、箸の使い方のような食文化など）

→ユニバーサルデザインとしてのピクトグラムは、マジョリティにとってもマイノリティにとっても有効な非言語ツールである！また、状況によって変わる「異質な文化」を自分自身の立場から認識してピクトグラムを考えてみよう！

2016年度　東京学芸大学附属世田谷中学校　2年生　　社会科地理的分野（日本地理）・英語科

パフォーマンス課題「ピクトグラムで多文化共生を考えよう」　　（担当：津山・森）

振り返りシート：「あなたにとって多文化共生とは何か」への応答

「関心・意欲。態度」	「思考・判断・表現」
／6	／6

2年　　組　　番　氏名

④深い振り返り	①応答のための振り返り
【ピクトグラムの実践の前後での自己変容】	問1、外国人児童・生徒を支援する立場（マジョリティ）で「ピクトグラム」を作成できたか？
【ピクトグラム実践による他者からの学び】	問2、外国人児童・生徒に近い立場（マイノリティ）からすると「ピクトグラム」は役に立つか？
	問3、英語でプレゼンすることで、言語が使えないもどかしさを理解できたか？

◎本質的で根源的な問い「あなたにとって多文化共生とは何か」

③回覧による他者からのコメント	②本質的で根源的な問いへの応答
コメント1（　　）	問、本質的で根源的な問い「あなたにとって多文化共生とは何か」に応答しよう。その際、①の振り返りや「自分にとっての異質な文化」と出会うことを想定した「共生」とは何かを考えよう。
コメント2（　　）	
コメント3（　　）	